

巡検報告「寛文地震時の三方地方の地殻変動をみる(2000年6月17~18日)」

地質調査所環境地質部*小松原琢

2000年6月17日~18日の2日にわたって、寛文二年(1662年)地震時における福井県三方五湖周辺の地殻変動の痕跡を訪ねる巡検を行いました。

参加者は地元郷土史等の研究グループ(三方古文書を読む会および語り部の会)の皆さん(総計15名)と、歴史地震研究会の会員(総計17名)、案内者は敦賀短期大学の岡田孝雄先生と京都大学大学院の金田平太郎氏、および小松原琢の3人でした。梅雨時ながら初日前半以外は比較的天気に恵まれ、様々な専門分野の方の間で議論が弾みました。その御報告をいたします。

巡検コースは、小松原ほか(2000)によって史料から地震時の隆起の跡を読み取った地点を中心に全部で19箇所をめぐるものです。近世文書に「磯辺が八十間干上った」と記された久々子湖北岸では、海岸より200mほど内陸側に位置する砂丘上で古代の製塩遺構が確認され、全く異なる分野から文書の信ぴょう性が裏付けられたと報告したところ、第四紀地学専門の竹村恵二氏から「では海岸付近の堆積物(砂丘間湿地の泥層)を掘って堆積年代の面からも検討してみてもはどうでしょうか?」と鋭く指摘されました。また、寛文地震による隆起によってダムアップされ増水した三方湖の水位を低下させるために開削された浦見川を眺めつつ、工事に

動員された人々の恨み節が記録されていたことや、明治以前には開削工事を監督した郡奉行・行方久兵衛に対して必ずしも好意的ではない評価が一部にあったことをめぐって、岡田孝雄氏と北原糸子氏ほか歴史専門家の間で活発な議論がかわされました。また、この工事にあたって火薬が使われたかどうかなど工法について、井上公夫氏ほか地質工学の専門家から問題提起されました。この地震の震動による被害記録が若狭地方全体で意外に少ないことを巡って、防災科学の立場から中村操氏より「どこで、どのような立場の人によって記録された史料かを吟味することが重要だ。」との指摘に対し、岡田孝雄氏より個々の史料の性格についての詳しい説明がなされました。さらに前年にトレンチ発掘を行った気山小学校跡地で、トレンチ調査担当者(水野清秀氏、須藤宗孝氏、および小松原)による「地形・地質学的手法による調査だけでは平安時代以降に三方断層が活動したことまでは立証できたが、寛文地震時に活動したか否か実証できなかった」ことを正直に(?)報告したところ、様々な分野の方から歴史地震学の現状と活断層調査結果の認識に関するギャップを指摘する意見をいただきました。

岡田孝雄氏の人を引き付ける情熱的な話や、三方湖畔の古寺(慈眼寺)住職・大

* 305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

石定志先生による古くから伝えられる祭礼や伝承の紹介から、郷土史家の土地や歴史に対する熱い愛情に強い印象を受けました。

巡検のメインテーマ以外の面でも、強震動専門の武村雅之氏から地震博物館設立の提案が、井上公夫氏からは「地震砂防」など新刊図書の紹介がなされるなど、活発な交流ができたと思います。

企画上の不手際もあり100%参加者の皆様に支えられた巡検でしたが、楽しく無事に終わらせることができました。別れ際に、案内をしてくださった岡田孝雄氏(元県立敦賀高校社会科教諭)に「先生の御弟子さんの中に歴史好きになった方がいっぱいいるのではないですか？」と水を向けたところ、二日間の疲れのためかとうとう居眠りしていた先生が急に起き上がって嬉しそうにうなづかれたことが忘れられません。

最後に巡検に御参加いただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

参考文献

小松原琢・水野清秀・金田平太郎・須藤宗孝・山根 博(2000):史料による1662

年寛文地震時の三方五湖周辺における地殻変動の復元. 歴史地震, 15, 81-100.
およびそれに引用されている諸論文。

コース

6月17日

敦賀-美浜駅-1. 松原遺跡-2. 久々子島新田-3. 早瀬海食洞-4. 日向川-5. 葎の峠-6. 浦見川-7. 梅杖岳-8. 海山(泊)

6月18日

1. 田井島新田-2. 多由比神社-3. 松の浜-4.

成出と杵筑神社-5. 三方町立縄文博物館-6. 鳥浜-7. 河中神社-8. 気山トレンチ地点-9. 宇波瀬神社-10. 恋の松原古墳跡-敦賀(解散)



梅杖岳にて記念撮影